

地域における連携の事例報告

報告① P1

渡邊哲意氏 宝塚大学東京メディア芸術学部教授
「宝塚大学の地域参加とその広がり」



報告② P15

二村孝光氏 株式会社フタミ商事代表取締役
「ごみの無法地帯をきれいなまちへ
～新宿二丁目町会と振興会との連携～」



報告③ P29

中村廣子氏 榎町特別出張所地区町会連合会常任相談役
「人にやさしいまち えのきの実現に向けて」



町会・自治会の映像紹介

上落合東部町会 「こどもたちとつながる町」

上落合西町会 「赤ちゃんからお年寄りまで顔が見える町」

淀橋町会 「町と街の調和 よどばしエリアマネジメント」

報告①

宝塚大学東京メディア芸術学部教授

渡邊 哲意氏



宝塚大学の地域参加と その広がり

宝塚大学東京メディア芸術学部
学部長 渡邊 哲意

宝塚大学東京メディア芸術学部

2006年

宝塚造形芸術大学 東京新宿キャンパス開設
大学院メディア・造形研究科を設置

2007年

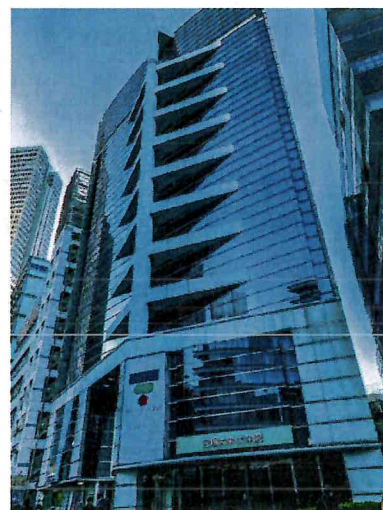
東京メディア・コンテンツ学部開設

2010年

大学名を宝塚大学に変更

2014年

東京メディア・コンテンツ学部を
東京メディア芸術学部に変更



新宿区との連携の始まり

• 2011年

• 東日本大震災で被災された方々への似顔絵提供



地域への関わりの増加

- 歌舞伎町アートマーケット
- 薬王寺・柳町七夕まつり
- 農山村ふれあい市場
- 大ガード下壁画
- 新宿フィールドミュージアムへの協力
- 新宿文化ロード
- 学生クリエイターズフェスタ
- 歌舞伎町X`Masコンサート

地域への関わりの増加

- 新宿耐震フォーラム
- 神楽坂まつり
- 戸塚地域センターまつり
- 四谷大好き祭り
- 神楽坂青空フェスタ
- とつか地区協フェスタ
- A! Lucky Park 桜まつり
- 若松河田ふれあいまつり

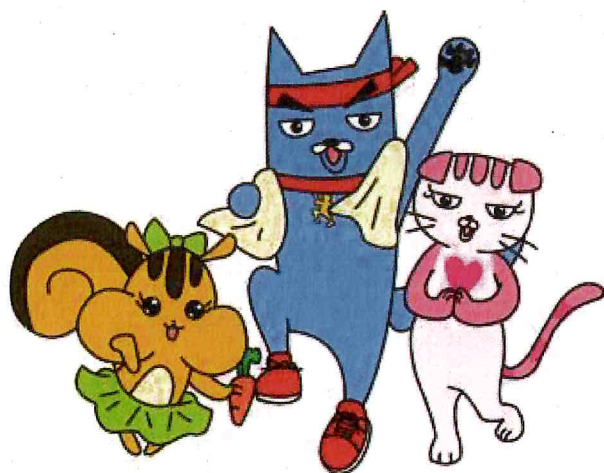
連携協定の締結

- 歌舞伎町タウンマネジメント
- 新宿区健康部
- 東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部

- 新宿区との包括連携（2022）



これまでの新宿区との取り組み



3人の使命は、
区民の健康寿命を
のぼすこと！
そのために
'からだにいいこと'を
楽しく区民の方に届けます

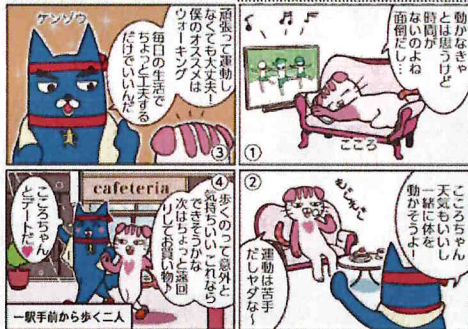
これまでの新宿区との取り組み

歩のしんじゅく健康コンパス!!

多くの区民の皆さんに健康に関心を持っていただけるよう、しんじゅく健康フレンズたちが健康づくりのヒントを紹介します。

【問合せ】健康づくり課健康づくり推進係(第2分庁舎分館1階) ☎(5273)3047・☎(5273)3930へ。

VOL.1 歩くことから始めよう



生活習慣病の予防には1日8,000歩、歩くことが必要といわれています。健康のために日頃から体を動かすことを心掛けましょう。



これまでの新宿区との取り組み



これまでの新宿区との取り組み



これまでの新宿区との取り組み



これからの時代の地域における大学の在り方について

中教審令和3年12月

これからの時代の地域における大学の在り方について - 地方の活性化と地域の中核となる大学の実現 -

(令和3年12月 中央教育審議会大学分科会 書議まとめ)

| | | |
|---|--|--|
| <p>はじめに</p> <p>(現状) 地域社会の活力の低下・多極分散型の国家形成の必要性・18歳人口の減少・地方部を中心に大学の定員未充足</p> <p>(検討に当たっての認識) 「地域の中核となる大学」の実現が、我が国社会全体の変革の駆動力となる。 「地域は様々な課題が生じる最前線。地方大学振興にも資する。」 「地域」の範囲は多様で、地域や大学の関係者での議論が求められる。</p> | | <p>(大学と地域に関する概念整理)</p> <p>本稿における「地域における大学」 =「地域に根差した」「地域に所在する」という地域との機能的な関係性に着目</p> <p>※「地方」は地理的な性質（主として「東京圏」以外）を表す場合に用いる。</p> |
| <p>1. 地域における大学の役割とこれまでの取組</p> <p>(地域における大学の役割) 地域において大学が果たす重要な役割</p> <p>①人材育成機関としての役割（必要不可欠な分野の従事者、地域産業のDXやグローバル化を推進する人材、地域社会を活性化させる人材）</p> <p>②高度な研究能力を有する機関としての役割（産業界等との連携、地域の発展や課題解決に資する取組の実行）</p> <p>③地域の文化・歴史を継承・継承する役割（地域の魅力の発信）</p> <p>④知と人材のハブとしての役割（海外等への他地域との窓口）</p> | <p>2. 地域における大学を取り巻く状況と「地域の中核となる大学」の必要性</p> <p>(大学にとっての地域の魅力) 学修のフィールド、様々な経験の場、イノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫、DX・グローバル化の最前線</p> <p>※地域における大学の振興を若者の流出抑制の手段としてのみ捉えるのではなく、国内外の人材の流動性を高め、日本の大学界や各地域が活性化していくという視点</p> <p>(「地域の中核となる大学」に求められるもの) 産学官連携、人材が集まる「魅力のある地域」、地域の課題解決や地域経済の発展を支え地域に貢献する「地域の中核となる大学」を目指す取組が必要</p> <p>※「地域の中核となる大学」の在り方は地域の関係者に活発に議論されるべき。地域社会における各大学の必要性が明確になることが重要。</p> <p>※必ずしもその地域に所在する大学にのみ求められるものではない。</p> | |
| <p>「①学修面での課題」「②イノベーション創出上の課題」「③連携上の課題」等が指摘</p> | | |
| <p>3. 地域ならではの人材育成の推進</p> <p><大学></p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生に関する基礎データの収集・分析・共有 実践的な長期インターンシップ 地方公共団体や企業が実施する奨学金の返還支援の活用 短期集中型のプログラム構築 等 <p><国></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的な卒業後の学生の地域別・分野別就職状況等の基礎データの収集 等 <p><地方公共団体・産業界等></p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の講師派遣、寄附金・寄附講座の提供 等 <p>※現在の延長線上で地域産業に役立つ人材だけでなく、地域の社会産業構造を変革し、DXやグローバル化へ導いていくような人材の育成も必要。</p> | <p>4. 地域ならではのイノベーションの創出</p> <p><大学></p> <ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体や産業界との窓口となる教職員・UR Aの配置 推進 大学院教育と学部教育の緊密・実質的な連携 ジョブ型研究インターンシップの実施 等 <p><国></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会変革等につながる産学官連携による研究開発や社会実装を促進する拠点形成支援 アントレプレナーシップ教育の充実、創業準備段階からのコンサルティング等の経営人材との連携支援 「イノベーション・コモズ（共創拠点）」を形成する大学施設等の整備推進 等 <p><地方公共団体・産業界等></p> <ul style="list-style-type: none"> 高等教育担当部署の創設や大学連携担当職員の配置 等 | <p>5. 連携の推進</p> <p><大学></p> <ul style="list-style-type: none"> 学長のリーダーシップの発揮による強みと特色の分析及び発信・広報 高等学校など地域の初等中等教育機関等との連携 等 <p><国></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携プラットフォームや大学等連携推進法人等に關する優れた取組事例についての周知広報 等 <p><地方公共団体・産業界等></p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの発掘・育成・活用 高等教育担当部署の設置 地方公共団体の総合計画等への大学を活用した地方創生に関する取組の位置付け 等 |

これからの時代の地域における大学の在り方について - 地方の活性化と地域の中核となる大学の実現 -

(令和3年12月 中央教育審議会大学分科会 書議まとめ)

| | | |
|---|--|--|
| <p>はじめに</p> <p>(現状) 地域社会の活力の低下・多極分散型の国家形成の必要性・18歳人口の減少・地方部を中心に大学の定員未充足</p> <p>(検討に当たっての認識) 「地域の中核となる大学」の実現が、我が国社会全体の変革の駆動力となる。 「地域は様々な課題が生じる最前線。地方大学振興にも資する。」 「地域」の範囲は多様で、地域や大学の関係者での議論が求められる。</p> | | <p>(大学と地域に関する概念整理)</p> <p>本稿における「地域における大学」 =「地域に根差した」「地域に所在する」という地域との機能的な関係性に着目</p> <p>※「地方」は地理的な性質（主として「東京圏」以外）を表す場合に用いる。</p> |
| <p>1. 地域における大学の役割とこれまでの取組</p> <p>(地域における大学の役割) 地域において大学が果たす重要な役割</p> <p>①人材育成機関としての役割（必要不可欠な分野の従事者、地域産業のDXやグローバル化を推進する人材、地域社会を活性化させる人材）</p> <p>②高度な研究能力を有する機関としての役割（産業界等との連携、地域の発展や課題解決に資する取組の実行）</p> <p>③地域の文化・歴史を継承・継承する役割（地域の魅力の発信）</p> <p>④知と人材のハブとしての役割（海外等への他地域との窓口）</p> | <p>2. 地域における大学を取り巻く状況と「地域の中核となる大学」の必要性</p> <p>(大学にとっての地域の魅力) 学修のフィールド、様々な経験の場、イノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫、DX・グローバル化の最前線</p> <p>※地域における大学の振興を若者の流出抑制の手段としてのみ捉えるのではなく、国内外の人材の流動性を高め、日本の大学界や各地域が活性化していくという視点</p> <p>(「地域の中核となる大学」に求められるもの) 産学官連携、人材が集まる「魅力のある地域」、地域の課題解決や地域経済の発展を支え地域に貢献する「地域の中核となる大学」を目指す取組が必要</p> <p>※「地域の中核となる大学」の在り方は地域の関係者に活発に議論されるべき。地域社会における各大学の必要性が明確になることが重要。</p> <p>※必ずしもその地域に所在する大学にのみ求められるものではない。</p> | |
| <p>「①学修面での課題」「②イノベーション創出上の課題」「③連携上の課題」等が指摘</p> | | |
| <p>3. 地域ならではの人材育成の推進</p> <p><大学></p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生に関する基礎データの収集・分析・共有 実践的な長期インターンシップ 地方公共団体や企業が実施する奨学金の返還支援の活用 短期集中型のプログラム構築 等 <p><国></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的な卒業後の学生の地域別・分野別就職状況等の基礎データの収集 等 <p><地方公共団体・産業界等></p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の講師派遣、寄附金・寄附講座の提供 等 <p>※現在の延長線上で地域産業に役立つ人材だけでなく、地域の社会産業構造を変革し、DXやグローバル化へ導いていくような人材の育成も必要。</p> | <p>4. 地域ならではのイノベーションの創出</p> <p><大学></p> <ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体や産業界との窓口となる教職員・UR Aの配置 推進 大学院教育と学部教育の緊密・実質的な連携 ジョブ型研究インターンシップの実施 等 <p><国></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会変革等につながる産学官連携による研究開発や社会実装を促進する拠点形成支援 アントレプレナーシップ教育の充実、創業準備段階からのコンサルティング等の経営人材との連携支援 「イノベーション・コモズ（共創拠点）」を形成する大学施設等の整備推進 等 <p><地方公共団体・産業界等></p> <ul style="list-style-type: none"> 高等教育担当部署の創設や大学連携担当職員の配置 等 | <p>5. 連携の推進</p> <p><大学></p> <ul style="list-style-type: none"> 学長のリーダーシップの発揮による強みと特色の分析及び発信・広報 高等学校など地域の初等中等教育機関等との連携 等 <p><国></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携プラットフォームや大学等連携推進法人等に關する優れた取組事例についての周知広報 等 <p><地方公共団体・産業界等></p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの発掘・育成・活用 高等教育担当部署の設置 地方公共団体の総合計画等への大学を活用した地方創生に関する取組の位置付け 等 |

地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－

(令和3年12月 中央教育審議会大学分科会 審議まとめ)

(大学と地域に関する概念整理)

本稿における「地域における大学」
＝「地域に根差した」「地域に所在する」という地域との機能的な関係性に着目

※「地方」は地理的な性質（主として「東京圏」以外）を表す場合に用いる。

地域における大学を取り巻く状況と「地域の中核となる大学」の必要性

地方の地域の魅力

ワールド、様々な経験の場、イノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫、DX・グローバル

- ・地域は様々な課題が生じる最前線。地方大学振興にも資する。
- ・「地域」の範囲は多様で、地域や大学の関係者での議論が求められる。

1. 地域における大学の役割とこれまでの取組

(地域における大学の役割)

地域において大学が果たす重要な役割

- ①人材育成機関としての役割（必要不可欠な分野の従事者、地域産業のDXやグローバル化を推進する人材、地域社会を活性化させる人材）
- ②高度な研究能力を有する機関としての役割（産業界等との連携、地域の発展や課題解決に資する取組の実行）
- ③地域の文化・歴史を発展・継承する役割（地域の魅力の発信）
- ④知と人材のハブとしての役割（海外等の他地域との窓口）

2. 地域に

(大学にとって

学修のフィー

化の最前線

※地域における

日本の大学界

(「地域の中

産学官連携

する「地域の

※「地域の中核

必要性が明確

※必ずしもその

「①学修面での課題」「②イノベーション創出上

2. 地域からだけの人材育成の推進

4. 地域からだけの人材育成の推進

変革の駆動力となる。
資する。
が求められる。

=「地域に根差した」「地域に所在する」という地域との機能的な関係性に着目

※「地方」は地理的な性質（主として「東京圏」以外）を表す場合に用いる。

2. 地域における大学を取り巻く状況と「地域の中核となる大学」の必要性

（大学にとっての地域の魅力）

学修のフィールド、様々な経験の場、イノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫、DX・グローバル化の最前線

※地域における大学の振興を若者の流出抑止の手段としてのみ捉えるのではなく、国内外の人材の流動性を高め、日本の大学界や各地域が活性化していくという視点

（「地域の中核となる大学」に求められるもの）

産学官連携、人材が集まる「魅力のある地域」、地域の課題解決や地域経済の発展を支え地域に貢献する「地域の中核となる大学」を目指す取組が必要

※「地域の中核となる大学」の在り方は地域の関係者に活発に議論されるべき。地域社会における各大学の必要性が明確になることが重要。

※必ずしもその地域に所在する大学にのみ求められるものではない。

②イノベーション創出上の課題」「③連携上の課題」等が指摘

地域ならではのイノベーションの創出

<大学>

5. 連携の推進

<大学>

域に所在する大学にのみ求められるものではない。

課題」「③連携上の課題」等が指摘

イノベーションの創出

の窓口となる教職員・URAの配置

緊密・実質的な連携
の実施 等

官連携による研究開発や社会実
援
の充実、創業準備段階からのコンサル
連携支援
（創拠点）を形成する大学施設等

や大学連携担当職員の配置 等

5. 連携の推進

<大学>

- ・学長のリーダーシップの発揮による強みと特色の分析及び発信・広報
- ・高等学校など地域の初等中等教育機関等との連携 等

<国>

- ・地域連携プラットフォームや大学等連携推進法人等に関する優れた取組事例についての周知広報 等

<地方公共団体・産業界等>

- ・コーディネーターの発掘・育成・活用
- ・高等教育担当部局の設置
- ・地方公共団体の総合計画等への大学を活用した地方創生に関する取組の位置付け 等

現在の取り組み

- 産業振興課
 - 大学等との連携による商店街支援事業
「若原共栄会活性化支援事業」

若原共栄会
X
宝塚大学東京メディア芸術学部
地域活性プロジェクト2022-2024

2023年度報告

活動実績

2023

- ・「こどもげんき広場」ポスターデザイン
- ・5/20「こどもげんき広場」缶バッジワークショップ



2023年5月20日(土) PM 5:00~8:00

雨天決行 **売り切れ終了**

かき氷、缶ジュース、焼きそば、チョコバナナ、焼き鳥、フランクフルト、オモチャ販売、水ヨーヨー、缶バッジワークショップ

こどもげんき 広場



活動実績

2023

- ・6/29現地フィールドワーク
大学院1年生と共に地域の魅力を発見するフィールドワークを行った。



活動実績

2023

- ・「ふれあい広場」ポスターデザイン
- ・9/9「ふれあい広場」
缶バッジワークショップ



活動実績

2023

- ・若原共栄会オリジナルキャラクター
企画

地域の広報に活用できるように様々な展開を企画進行中。既に地域に配布するチラシに活用された。現在のところ店舗等にディスプレイできるように等身大パネル、アクリルスタンドの制作を進めている。



活動実績

2023

- ・若原共栄会オリジナルキャラクター企画
地域の広報に活用できるよう
様々な展開を企画進行中。既に
地域に配布するチラシに活用され
た。現在のところ店舗等にディス
プレイできるように等身大パネル、
アクリルスタンドの制作を進めて
いる。

～地域応援クーポン付きチラシ～

★このチラシのクーポンをご持参頂くと500円(お買い上げ)毎に100円の割引となります。
★下記地図のお店のみ対象店舗となります。(加盟店全てのお店で使える訳ではありません)
★クーポンの使用期限は2023年(令和5年)12月1日～12月25日迄となります。

期間
12月1日～25日迄

クーポン
100円引(500円毎)

応援します！

町の元気を

クーポンが使える店舗
地図の赤字のお店が使える店舗です。

このチラシは地域にポスティングしております。新居町の商店会共同協賛促進事業で、
会員店舗の売上拡大に繋がる取組が実施に活用しております。

若原共栄会
http://www.wa-ha.com

100円割引クーポン
100円割引クーポン
100円割引クーポン

今後の取り組み

- ・商店街・町会との関係
- ・地域全体の底上げ
- ・若い世代との共同
- ・継続性のある取り組み・自走できる取り組み
- ・事業終了後のサポート方法
- ・学生の教育フィールドとしての地域の活用
- ・単位認定の取り組み
- ・学生参加の仕組み

報告②

株式会社フタミ商事代表取締役
二村 孝光氏



ごみの無法地帯をきれいなまちへ
～新宿二丁目町会と振興会との連携～

新宿二丁目町会清掃部委員長 二村 孝光

目次

- 1 **ごみの無法地帯「新宿二丁目」**
- 2 事業者用ごみの排出ルール
- 3 私がごみ問題を考え出したきっかけ
- 4 ゴミノミクス三本の矢
- 5 まち美化の流れ
- 6 新宿二丁目振興会の動き

1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」



●多くの飲食店が集まる街

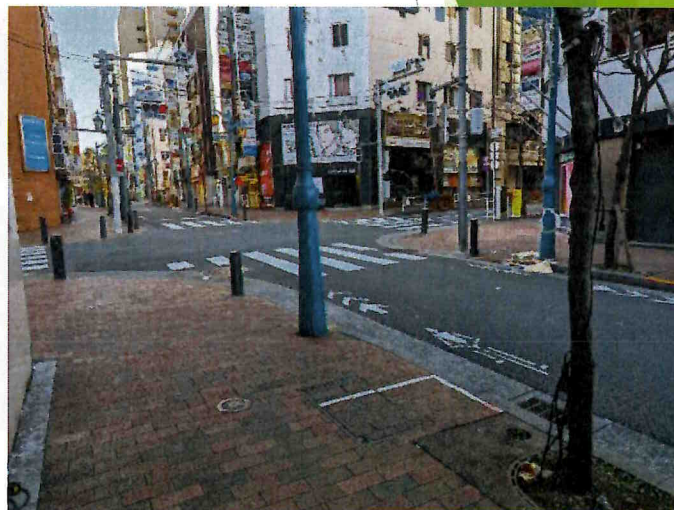
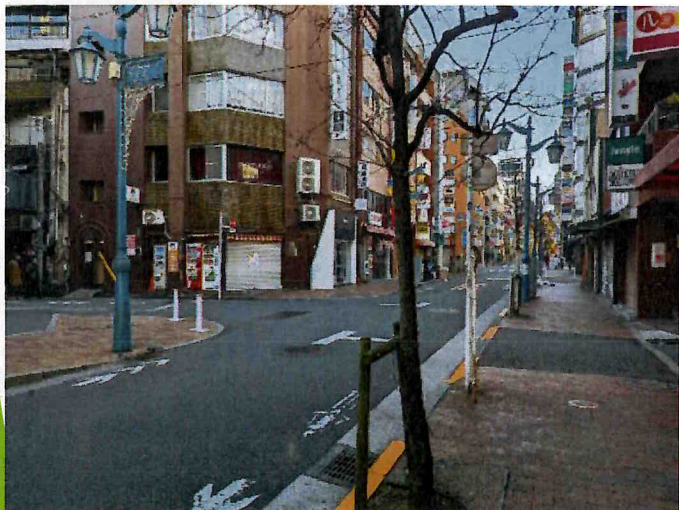
新宿二丁目は半径150メートルの範囲内にゲイバーをはじめとする約450店舗のLGBTQ関連の飲食店が集まっており、通称「ゲイタウン」と呼ばれている。

●「ごみの街」

それらの飲食店から四六時中排出されるごみが後を絶たない状況となっていた。2018年～19年頃は、マスコミ等で「ごみの無法地帯」「ごみの街」と言われ、さらに外部からの不法投棄が増え、新宿区は毎日収集、さらに都度収集で対応する悪循環に陥っていた。

1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」

現在の新宿二丁目の様子



1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」

2018～2019年頃の新宿二丁目の様子



1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」



目次

- 1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」
- 2 **事業者用ごみの排出ルール**
- 3 私がごみ問題を考え出したきっかけ
- 4 ゴミノミクス三本の矢
- 5 まち美化の流れ
- 6 新宿二丁目振興会の動き

2 事業用ごみの排出ルール



事業者が出すごみは、①**民間の廃棄物処理業者と契約**するか、②**東京23区事業系有料ごみ処理券（有料シール）を添付**してごみ処理する必要がある



当時の新宿二丁目は・・・

有料シールどころか分別や収集日さえも全く守られていなかった

目次

- 1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」
- 2 事業者用ごみの排出ルール
- 3 **私のごみ問題を考え出したきっかけ**
- 4 ゴミノミクス三本の矢
- 5 まち美化の流れ
- 6 新宿二丁目振興会の動き

3 私がごみ問題を考え出したきっかけ

日常生活で

2015年頃、子ども参加した花園神社のお祭りで子ども神輿や山車を引いたあと、歩道に座りアイスを食べている時にふと後ろを振り返ると

ごみの山 があった・・・

このような状況を子どもに自慢できるのか



3 私がごみ問題を考え出したきっかけ

仕事をするうえで

不動産屋の仕事をしている中で、新宿二丁目振興会より、ポイ捨て、日曜日のごみ、新宿公園のごみについて相談を受けていた

以前から町会で**月2回**の**清掃活動**を実施しているが

根本的な問題の解決には、ごみ排出**マナーの改善**が必要である

目次

- 1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」
- 2 事業者用ごみの排出ルール
- 3 私のごみ問題を考え出したきっかけ
- 4 **ゴミノミクス三本の矢**
- 5 まち美化の流れ
- 6 新宿二丁目振興会の動き

4 ゴミノミクス三本の矢

- 新宿二丁目は多様性のある魅力的なまちである
- モラルが低い人たちが集まるところだと思われたくない

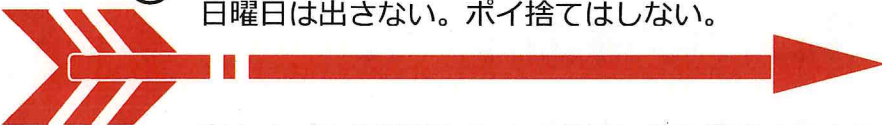
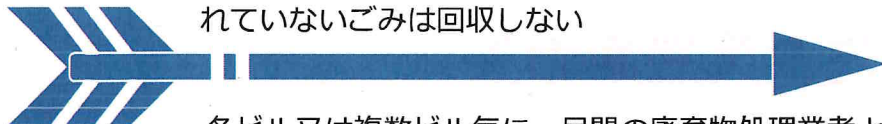



**世界中の人が集まるオリンピック
までには成果をあげよう**

ごみ問題解決のステップとして

「ゴミノミクス三本の矢」 を考えるに至った

4 ゴミノミクス三本の矢

- ① ごみは分別し、夜0時から朝8時までの間に出す。
日曜日は出さない。ポイ捨てはしない。
- ② 現在のごみ集積所をやめて各ビル前に排出するよう
にし、ビル毎にごみを管理する。有料シールが貼ら
れていないごみは回収しない
- ③ 各ビル又は複数ビル毎に、民間の廃棄物処理業者と
契約して有料で収集してもらう。これにより日曜日
の収集を実現する。

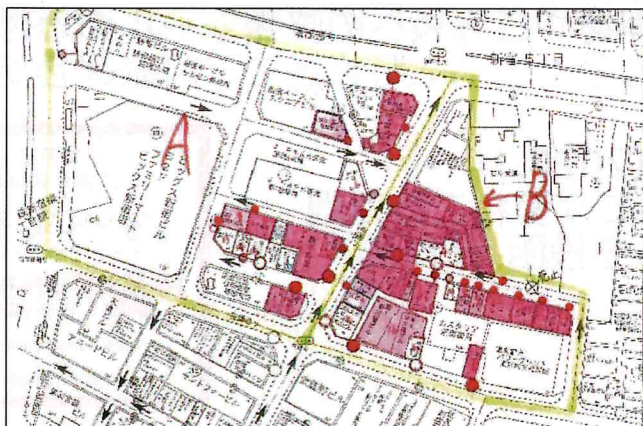
目次

- 1 ごみの無法地帯「新宿二丁目」
- 2 事業者用ごみの排出ルール
- 3 私がごみ問題を考え出したきっかけ
- 4 ゴミノミクス三本の矢
- 5 まち美化の流れ
- 6 新宿二丁目振興会の動き

5 まち美化の流れ

STEP 1 集積所の分散 (2017年～2019年)

まちをA～Dの4ブロックに分け、Aから順番に既存のごみ集積所の廃止、各ビル前へ集積所を設置することでごみの分散を行う



5 まち美化の流れ

STEP 2 地域の清掃活動

新宿二丁目町会 毎月2回清掃活動

二丁目海さくら 2017年～



毎月1回活動

振興組合による清掃活動 2020年～



毎週水曜日活動

5 まち美化の流れ

STEP 3 有料ごみシール貼付の周知活動

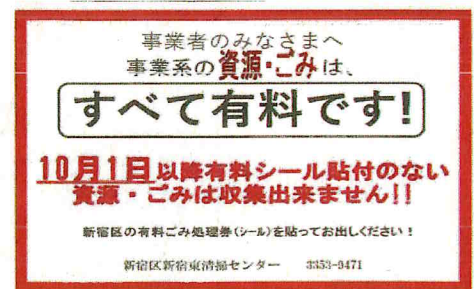
①新宿区（新宿東清掃センター）による排出状況の悪い集積所の巡回や排出調査（2020.5～）

毎朝巡回し、訪問指導やごみ袋への啓発シールの添付

※訪問指導時は新宿区とともに町会と二丁目振興会が同行

②啓発チラシの投函（2020.10～）

約800事業者に対して「有料ごみ処理券添付のお願いチラシを投函（計6回）」



5 まち美化の流れ

STEP 4 事業系ごみ処理の民間委託（2020.10～）

①民間委託

業者探しは難航したが、ある民間業者と条件が折り合い、全品毎日回収がスタート。はじめは弊社自社物件約50件→二丁目振興会加盟店約80件→その他と広がり、現在は約600件となっている。

②民間サービスの充実

二丁目オリジナル袋、30L袋の作成、販売店の設置など



5 まち美化の流れ

その他

- **最大集積所の廃止（2020.12～）**
不法投棄の多発で問題となっていたアコードビル前の集積所を廃止。廃止日夜10時には新宿区、町会、二丁目振興会の10数名が集まりパトロールを実施した
- **年末ごみの一掃（2020.12.28～30）**
町会と二丁目振興会負担にて有料シール未貼付ごみへシールを貼付し、収集してもらう。年末の二丁目振興会主催のごみ拾いに町会が参加し、約100人規模でごみ拾いを行う

目次

- 1 **ごみの無法地帯「新宿二丁目」**
- 2 **事業者用ごみの排出ルール**
- 3 **私のごみ問題を考え出したきっかけ**
- 4 **ゴミノミクス三本の矢**
- 5 **まち美化の流れ**
- 6 **新宿二丁目振興会の動き**

6 新宿二丁目振興会の動き

コロナ禍が契機に

2020年のコロナ禍で飲食店は休業せざるを得なくなり、皆が今後の経営に不安を抱えていたが、これが契機となりまちの美化が推進されることになった。

早くまちに活気が戻ってきて欲しいという気持ちが町会、振興会の中で**共通していたのではない**か

→ ごみ問題が「**他人事**」から「**自分事**」に

6 新宿二丁目振興会の動き

防犯対策として

休業店で盗難が増えたことを受けてみんなで店の換気と掃除を始めた

まちのために

すべきことを考えた結果、清掃活動を行うことになった

広がるつながり

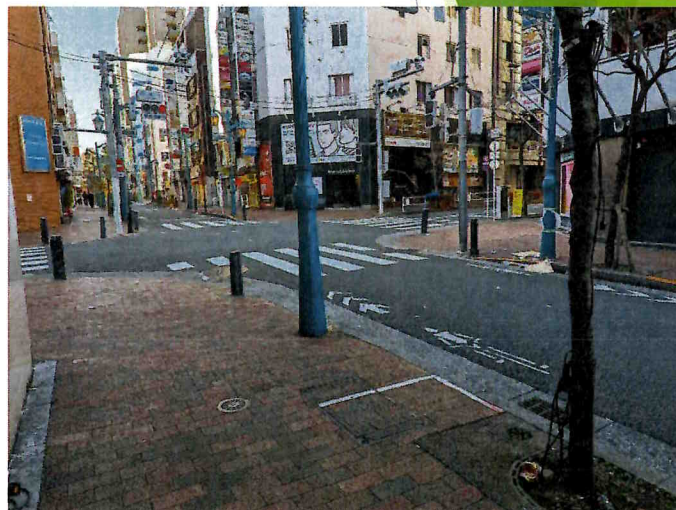
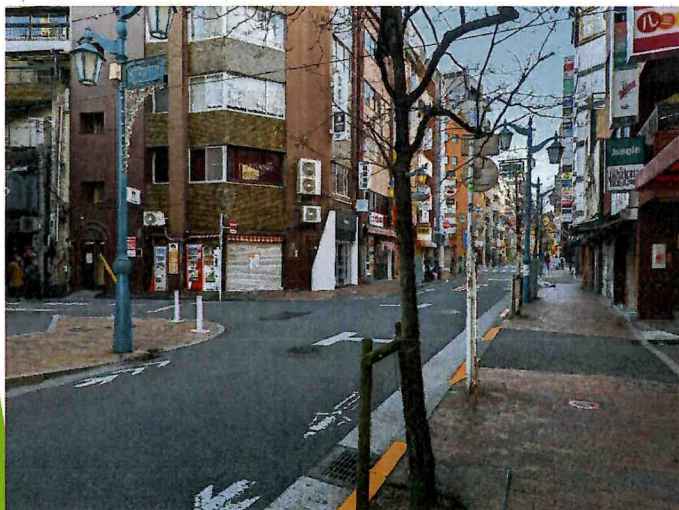
適切なごみの排出を心掛けるようになり、お店同士で分別などの排出方法を教えあうようになった

町会と振興会の連携

清掃活動を契機に私（二村）と振興会代表（田辺氏）が知り合い二丁目美化へのビジョンを語り合い、**良き協力関係が構築**されるようになった。また町会と振興会の連携により、**不法投棄の抑制、民間委託による適正排出**が進んでいった。

6 新宿二丁目振興会の動き

現在の新宿二丁目の様子（再掲）



ご清聴ありがとうございました

報告③

榎町特別出張所地区町会連合会
常任相談役
中村 廣子氏



「人にやさしいまち えのき」
の実現に向けて

榎町特別出張所地区町会連合会 常任相談役

中村 廣子

はじめに

▶ 中村廣子 プロフィール

平成11年 5月 中里町町会長に就任

平成19年10月 榎町特別出張所地区町会連合会会長に就任

▶ 榎町地区の紹介

古くは武家屋敷や寺社仏閣、農村が混在していた地域。

現在は新宿の地場産業の印刷製本の工場と住宅地が広がっている。

文豪夏目漱石の生誕と終焉の地。

漱石山房記念館はまちのシンボルとなっている。



平成19年当時の社会状況

▶ **急速な少子高齢化**により将来的な人口減少が懸念されていた。

▶ **個人の生活様式の多様化**により、一人暮らし高齢者増加や核家族化といった地域社会の構造の変化が進んだ。

▶ 地方分権が謳われ、地域がその**個性や特色をいかしたまちづくり**を進めていくことが求められ始めた。



榎町地域が抱えていた課題

- ▶ 木造住宅の密集する地域や神田川に沿って形成される住宅街など、火災や水害、地震発生時の家屋倒壊といった**災害発生**の危険度が高いと言われている。



- ▶ 住宅環境の変化により、戸建住宅がマンションなど集合住宅に建て替わり、地域住民のライフスタイルの変化による**地域のつながり**の希薄化が進んでいた。



「人と町をつなぐ」まちづくり

- ▶ 住み慣れた地域で安心して住み続けるためには、もう一度、**人と人、町と町を結び直す**ことが必要。
- ▶ 顔と顔の見える関係のもと、隣近所の助け合い「**近助**」「**共助**」で支える**まちづくり**が必要。
- ▶ 地域の課題は**一つの町会**の問題ではなく、**地区全体**の課題として共有し、「**減災の町づくり**」「**安全で安心して住み続ける、人にやさしい町づくり**」をするため町会連合会に呼びかけ。

地域課題を地区全体で考える町会連合へ

- ▶ 当時の町会連合は、町会ごとに地理的条件の違いもあり、防災に関する考え方や関心が様々であった。
- ▶ そうした中でも1年半をかけ、町会連合会の定例会に問題を投げかけ、協議を重ね、町会連合会として取り組む事業のはじめの一歩として平成21年に「結フェスタ」を実施することとなった。
- ▶ 結フェスタは「人と町をつなぐ」をスローガンに防災に関する展示体験、各町会からの模擬店出店などを行い、2日間で約6,500人が参加するイベントとなった。



えのき結フェスタ 2009



防災ワークショップ 2010

町会連合会での取り組み①

～安全安心で快適なまちづくり～

- ▶ 結フェスタの成功を皮切りに地域での防災イベントを継続する中、平成23年3月11日に東日本大震災が発災。
- ▶ 震災を契機に地区町連に「防災プロジェクトチーム」を立ち上げ。
(平成24年4月15日「東京防災隣組」第1回認定)
- ▶ 首都直下型地震発生を想定した
安否確認・情報伝達の訓練として
「**防災黄色旗による管内一斉訓練**」を開始。



無事を知らせる黄色旗

町会連合会での取り組み②

～地域の絆づくり・歴史と文化の継承～

- ▶ あらゆる世代が支え合う地域づくりのために、
人と人を結び直す第一歩として「**えのき声かけ隊**」
を結成。子どもから高齢者まで、地域の人々へ
の声かけ運動を推進。
- ▶ 夏目漱石生誕150周年を迎えるに当たり、子どもたちに親しまれ、
地域に愛され続けられるよう、平成25年に「夏目漱石」プロジェ
クトチームを立ち上げ、出張所管内の4小学校の5・6年生を対象
とした「**夏目漱石**」暗唱コンクールを開始。



声かけ隊バッジ



友愛カード

「人にやさしいまち えのき」の さらなる発展に向けて

- ▶ 榎町地区町連では現在も、3つの柱となる事業を管内27町会の会長が分担して実施し、町会長同士の連携を深めている。

「安全安心で快適なまち」
実現チーム

防災・SDGsの集い

「人にやさしいまち
えのき」実現チーム

えのき声かけ隊

「歴史と文化と心の通い
合うまち」実現チーム

「夏目漱石」暗唱コンクール

「夏目漱石」暗唱コンクール

模範暗唱を
お聴きください

吾輩は猫である

夏目漱石

吾輩は猫である。名前はまだ無い。
どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。
何でも薄暗いじめじめした所でニャー
ニャー泣いていた事だけは記憶してい
る。吾輩はここで始めて人間というも
のを見た。しかもあとで聞くとそれは
書生という人間中で一番癡悪な種族で
あったそうだ。